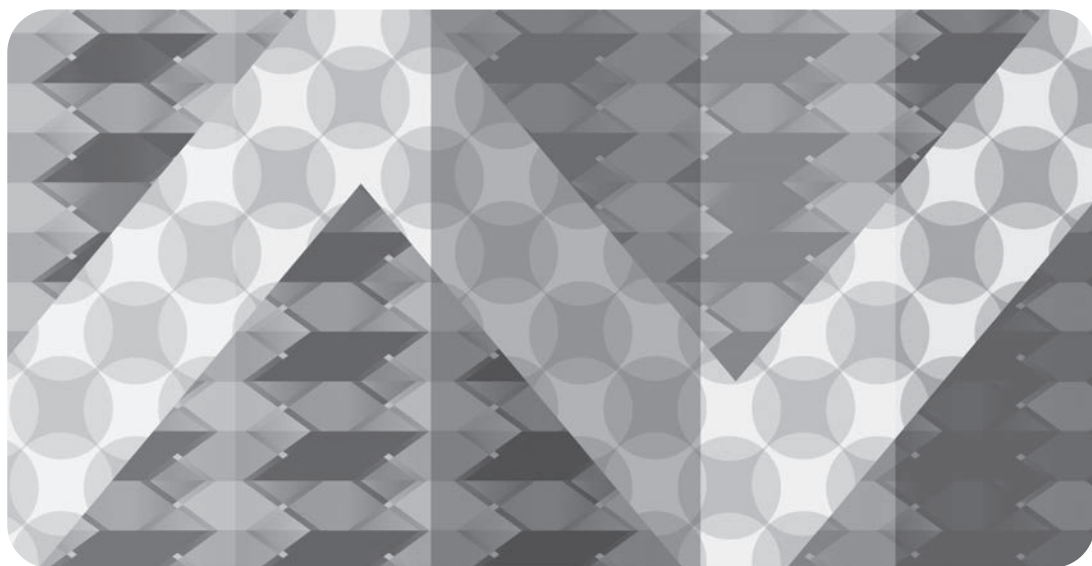


# 簿記初級

ワークブック



**Step 01 簿記の基礎概念 .....6**

1-1 どうして簿記が必要なのか？ .....	6
1-2 貸借対照表.....	7
1-3 損益計算書.....	9
1-4 貸借対照表と損益計算書の関係.....	10
練習問題.....	12

**Step 02 取引・勘定.....14**

2-1 取引の意義と種類 .....	14
2-2 取引の8要素と結合関係.....	14
2-3 勘定の意義と分類.....	15
2-4 勘定記入のルール.....	17
2-5 仕訳の意義.....	18
2-6 貸借平均の原理.....	19
練習問題.....	19

**Step 03 証ひょうと帳簿 .....21**

3-1 証ひょう .....	21
3-2 帳簿.....	21
練習問題.....	26

**Step 04 現金預金 .....28**

4-1 現金.....	28
4-2 当座預金 .....	30
4-3 その他の預貯金.....	32
練習問題.....	34

**Step 05 商品売買1.....36**

5-1 三分法による売買取引の処理.....	36
5-2 売掛金、買掛金.....	39
練習問題.....	40

**Step 06 商品売買2.....42**

6-1 仕入および売上の返品.....	42
6-2 まとめ.....	43
6-3 クレジット売掛金.....	45
6-4 前払金、前受金.....	46
練習問題.....	47

**Step 07 手形.....50**

7-1 手形とは.....	50
7-2 手形の振出、支払.....	51
7-3 手形の受入、取立.....	52
7-4 電子記録債権と電子記録債務.....	53
練習問題.....	54

**Step 08 その他の債権・債務.....56**

8-1 貸付金と借入金.....	56
8-2 未収入金と未払金.....	57
8-3 立替金と預り金.....	58
8-4 仮払金と仮受金.....	60
練習問題.....	61

**Step 09 有形固定資産.....63**

9-1 有形固定資産の取得.....	63
9-2 有形固定資産の売却.....	64
9-3 減価償却の計算.....	65
9-4 減価償却費の記帳方法.....	66
練習問題.....	67

## Step 10 純資産（資本）.....69

10-1 資本金 .....	69
10-2 引出金 .....	72
練習問題.....	73

## Step 11 税金.....74

11-1 税金の種類 .....	74
11-2 固定資産税 .....	74
11-3 印紙税 .....	75
11-4 所得税 .....	75
11-5 消費税 .....	76
練習問題.....	78

## Step 12 収益と費用.....79

12-1 収益とは.....	79
12-2 収益の勘定科目 .....	79
12-3 費用とは.....	80
12-4 費用の勘定科目 .....	80
練習問題.....	82

## Step 13 試算表.....84

13-1 試算表とは何か？ .....	84
13-2 試算表の作り方 .....	85
練習問題.....	88

## Step 14 伝票.....90

14-1 入金伝票.....	90
14-2 出金伝票.....	91
14-3 振替伝票.....	91
14-4 一部現金取引.....	92
14-5 伝票の集計と管理.....	93
練習問題.....	95

Step **15** 総合練習 .....97

索引.....105

本書に掲載している問題の「解答ファイル」は、以下の URL からダウンロードできます。

**解答ファイルのダウンロード URL**

**https://-----**

## 簿記の基礎概念

### 1-1 どうして簿記が必要なのか？

人や会社が活動をすると、お金が動きます。お客さんが衣料品店でシャツを買ったとしましょう。そうすると、お客さんはシャツという商品を手に入れ、その代わりに代金として現金を支払います。衣料品店はお客さんに商品を売ることによって、現金を手に入れます。お客さんは自分の衣食住を満たすために働いてお金を稼いで、使います。衣料品店は商品を売って儲けを出して、お店を潰さないように仕事をします。現金だけを使って仕事をする場合は、現金があるかないかで、今の状態がわかりますが、銀行の預金を使ったり、代金をツケにしたりすると複雑になって、今の状態がわからなくなってしまいます。そこで、お金の動きをきちんと記録することが必要になります。

みなさんは、小遣帳や家計簿をつけたことはありませんか。これをつけると、お金の出入りがよくわかります。ひと月分を集計すると稼いだお金と使ったお金がわかり、使い過ぎていないかがわかります。稼いだお金と使ったお金の差額が残ったお金で、今手もとにあるお金ということになります。実際にあるか確かめることによって、盗まれていないかがわかります。会社では、多くの人が働いて、お金を儲け、使います。ちゃんと記録をとらないと、どうなっているかわからなくなってしまいます。だから、簿記をやって、記録をするんです。

また会社は、株主から資金を集めたり、銀行からお金を借りたりします。そのために、会社の状態を株主や銀行に知らせる必要もあります。そのために記録を集計して、報告書を作ります。貸借対照表と損益計算書です。これらの報告書によって、財産がどれくらいあるか（**財政状態**）やどれだけ儲かったか（**経営成績**）を報告します。

簿記は、このように会社が行った仕事を、記録して、集計して、報告するために必要なものです。

会社の中では、簿記で記録をすることで、財産を管理したり、従業員の仕事を管理したりするのに役立つよ。

簿記によって、会社の財産や経営の状態がわかるよ。



会社の外では、銀行は借金を返済する力があるかどうか、株主は儲かる会社かどうかを判断するために、簿記の報告書が役立っているよ。

## 1-2 貸借対照表

### 1-2-1 貸借対照表とは何か？

会社が一定期間に行った仕事の結果として残った財産（**財政状態**）を一覧表にした報告書が、**貸借対照表**です。英語で Balance Sheet といって、たいしやくたいししょうひょう B/S と略します。簿記では左側を**借方**、右側を**貸方**とといいます。会社の財産を右側と左側、つまり、貸方と借方に対比させて表わした表なので、貸借対照表といわれます。借方（左側）に資産、貸方（右側）に負債と純資産（資本）を載せます。貸借対照表は一定時点の財政状態を表す報告書で、ふつうは1年間の最後の日（**決算日**とといいます）に作成されます。

#### 貸借対照表

CS商店		x1年12月31日		(単位：円)	
資産の部	金額	負債・純資産の部	金額		
現金	520,000	買掛金	260,000		
売掛金	310,000	借入金	180,000		
商品	40,000	資本金	600,000		
貸付金	130,000	当期純利益	160,000		
備品	200,000				
	1,200,000				1,200,000

会社の財産の状態を表すよ。



この貸借対照表の貸借の関係を算式で表すと、次のようになります。

$$\begin{array}{|c|} \hline \text{資産} \\ \hline \text{借方} \\ \hline \end{array} = \begin{array}{|c|} \hline \text{負債 + 純資産 (資本)} \\ \hline \text{貸方} \\ \hline \end{array}$$

これは、**貸借対照表等式**といって、貸借対照表の仕組みを示す算式です。

### 1-2-2 資産とは何か？

貸借対照表の借方（左側）に載せる**資産**とは、財貨と債権です。**財貨**は金品や物品などの価値がある財産で、現金、銀行の預金、土地、建物などです。**債権**は相手に金品などを請求する権利で、売掛金、受取手形、貸付金などです。どちらも会社の財産を増やすものなので、**積極財産**（プラスの財産）といわれます。

資産勘定は、財貨や債権が増加した場合にその資産勘定の借方に記入し、財貨や債権が減少した場合にその資産勘定の貸方に記入します。

### ■ 1-2-3 負債とは何か？

貸借対照表の貸方（右側）に載せる**負債**とは、債務です。**債務**は相手に金品などを返済する義務で、買掛金、支払手形、借入金などです。これらは会社の財産から支払する（財産を減らす）ものなので、**消極財産**（マイナスの財産）といわれます。

負債勘定は、債務が増加した場合にその負債勘定の貸方に記入し、債務が減少した場合にその負債勘定の借方に記入します。

#### memo

簿記では、左側を借方、右側を貸方と言うよ。「借」と「貸」の漢字の意味を考えると間違えやすいから、単純に、左側と右側と覚えるといいよ。簡単な覚え方は、ひらがなにして、借方（かりかた）の「り」は左にはらって、貸方（かしかた）の「し」は右にはらうから、借方は左側、貸方は右側と覚えるといいよ。



借方

かりかた

左にはらうから、左側

貸方

かしかた

右にはらうから、右側

### ■ 1-2-4 純資産（資本）とは何か？

もう一つ貸借対照表の貸方（右側）には、純資産（資本）を載せます。**純資産**（資本）は資産と負債の差額で、会社を運営するための元手になる正味の財産なので、正味財産ともいわれます。個人企業では資本金です。

純資産勘定は、出資などで元手が増加したときにその純資産勘定の貸方に記入し、減少したときにその純資産勘定の借方に記入します。

先ほど示した貸借対照表等式を変形すると、次の算式ようになります。

$$\text{純資産（資本）} = \text{資産} - \text{負債}$$

これは、純資産（資本）を定義する算式で、**資本等式**といいます。



memo

純資産と資本は、個人企業では同じものです。資本は企業の所有者の持分です。個人企業では、資本金が唯一の純資産の勘定科目で、期中に設けた利益は資本金の増加になり、所有者（店主）の持分になります。株式会社では、資本金以外にも純資産の勘定科目があり、その中には所有者（株主）の持分ではないものも存在します。詳しいことは本書では説明しませんが、株式会社では純資産と資本は同じでない場合もあります。



## 1-3 損益計算書

### 1-3-1 損益計算書とは何か？

会社が一定期間に行った仕事の成果（**経営成績**）を表すのが、<sup>そんえきけいざんしょ</sup>損益計算書です。英語では、Profit and Loss statement（または、Income statement）といて、<sup>ピーエル</sup>P/Lと略します。この一定期間は**会計期間**といて、ふつうは1年間です。

仕事の成果は、収益と費用、そして当期純利益として表示します。損益計算書には、借方に費用、貸方に収益を記載し、その差額として当期純利益（あるいは当期純損失）を表示します。この関係を算式で表すと、つぎのようになります。

費用 + 当期純利益	=	収益	…………… 利益が出る場合
(費用	=	収益 + 当期純損失)	…………… 損失が出る場合
借方		貸方	

これは、損益計算書の仕組みを示す算式で、**損益計算書等式**といいます。仕事がかうまくいつて利益（儲け）が出た場合は**当期純利益**を借方側に、仕事がかうまくいかず損失が出てしまった場合は**当期純損失**を貸方側に表示します。

## 損益計算書

C S 商店 自 x1 年 1 月 1 日至 x1 年 12 月 31 日 (単位：円)

費用	金額	収益	金額
売上原価	520,000	売上高	1,000,000
給料	240,000	受取利息	40,000
水道光熱費	70,000		
支払利息	50,000		
当期純利益	160,000		
	1,040,000		1,040,000

会社の経営成績  
を表すよ



### ■ 1-3-2 収益とは何か？

損益計算書の貸方（右側）に載せる**収益**は、会社の活動によって得られた財産の増加額のこと、営業活動によって得られる商品の売上やサービスからの収入、そのほかの活動から得られる受取利息、受取手数料などがあります。

収益勘定は、代金を受け取るなどして収益が発生した場合にその収益勘定の貸方に、減少した場合はその収益勘定の借方に記入します。

### ■ 1-3-3 費用とは何か？

損益計算書の借方（左側）に載せる**費用**は、利益を得るために費やされた財産の減少額のこと、商品の売上を得るために費やされる商品の売上原価、サービスから収入を得るために費やされるサービスの原価、そのほかの活動のために費やされる支払利息、支払手数料などがあります。

費用勘定は、代金を支払うなどして費用が発生した場合にその費用勘定の借方に、減少した場合はその費用勘定の貸方に記入します。

## 1-4 貸借対照表と損益計算書の関係

貸借対照表は一定の時点（通常、決算日）の財政状態を示す財務表で、損益計算書は一会計期間の経営成績を示す財務表です。

損益計算書等式（9 ページ）を変形すると、

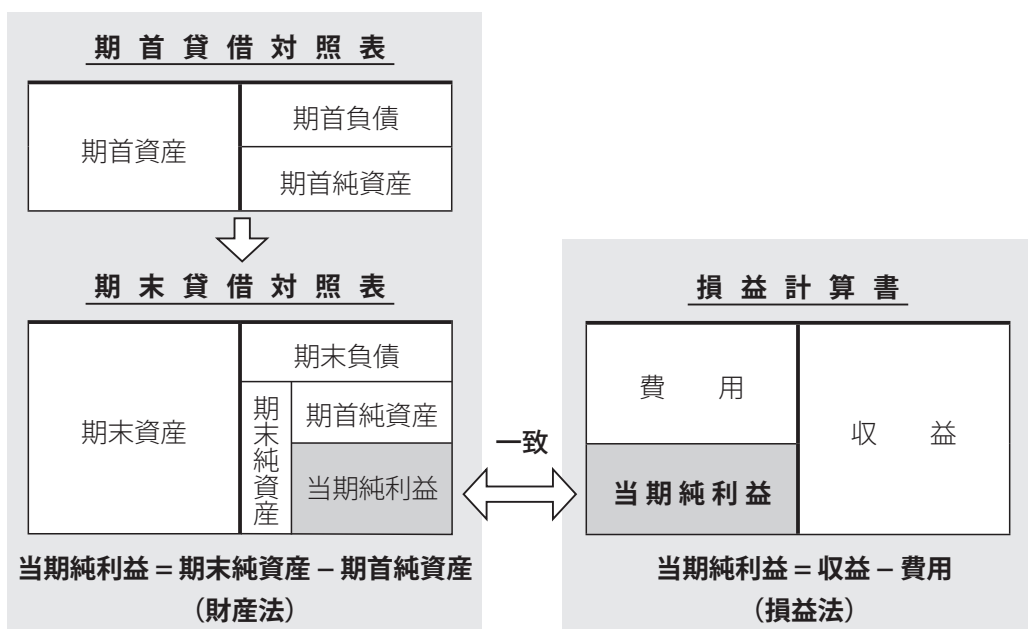
$$\text{当期純利益} = \text{収益} - \text{費用}$$

となります。これは**損益法**といって、損益（収益と費用）から利益を求める方法で、この計算式を**損益法の利益計算式**といいます。損益計算書ではこの方法によって当期純利益を計算し、表示します。当期純利益は、純資産を増加させる原因である収益から純資産を減少させる原因である費用を差し引いたもので、純資産の正味の増加額ということになります。

利益が純資産の正味増加額であるということから考えると、当期純利益は期末の純資産と期首の純資産の差額、つまり、その会計期間における純資産の増加額ということでも計算することができます。この考え方を**財産法**といい、**財産法の利益計算式**は、つぎのようになります。

$$\text{当期純利益} = \text{期末純資産} - \text{期首純資産}$$

財産法と損益法の関係は、つぎのようにまとめることができます。



財産法は、一期間で増加した純資産の金額を当期純利益として計算するよ

損益法は、利益を増やす原因と減らす原因の差額として当期純利益を計算するよ



## 練習問題

つぎの各問の（ ）にあてはまる答えとして、最も適当なものを選択肢から選びなさい。

① 簿記とは、企業の経済活動を、記録して、集計して、（ ）するためのツールである。

【選択肢】 計算、報告、実行、管理、計画

② 企業が一定期間に行った経済活動の結果として残った財産（財政状態）を示すのは、（ ）である。

【選択肢】 試算表、総勘定元帳、貸借対照表、損益計算書、仕訳帳

③ 資産とは、現金、預金、土地、建物などの財貨と、売掛金、受取手形、貸付金などの（ ）である。

【選択肢】 債権、債務、財産、負債、収益

④ （ ）とは、買掛金、支払手形、借入金など、相手に金品などを返済する義務である。

【選択肢】 資産、負債、純資産、収益、費用

⑤ （ ）は資産と負債の差額で、会社を運営するための元手になる正味の財産である。

【選択肢】 財産、債権、債務、純資産、利益

⑥ （ ）は、企業が一定期間に行った経済活動の成果（経営成績）を表す。

【選択肢】 貸借対照表、損益計算書、仕訳帳、総勘定元帳、試算表

⑦ （ ）は、企業の経済活動によって得られた財産の増加額のこと、売上、受取利息、受取手数料などがある。

【選択肢】 資産、負債、純資産、収益、費用

⑧ 費用は、利益を得るために費やされた財産の減少額のこと、商品の売上原価、（ ）、支払手数料などがある。

【選択肢】 現金、売上、借入金、資本金、給料

⑨ （ ）は、収益と費用の差額として利益を求める方法である。

【選択肢】 定額法、財産法、損益法、直接法、利益法

- ⑩ 財産法は、期末（ ）から期首（ ）を差し引いて利益を求める方法である。  
【選択肢】 資産、負債、純資産、収益、費用
- ⑪ 貸借対照表の（ ）には資産を、その反対側には負債と純資産を記載する。  
【選択肢】 右側、上側、下側、借方、貸方
- ⑫ 簿記では、右側を（ ）という。  
【選択肢】 借方、貸方、弓手、馬手、上手、下手
- ⑬ 簿記では、左側を（ ）という。  
【選択肢】 借方、貸方、弓手、馬手、上手、下手
- ⑭ 貸借対照表は、通常、会計期間の最終日、つまり（ ）に作成される。  
【選択肢】 週末、月末、決算日、1月1日、4月1日
- ⑮ 貸借対照表は、一定時点の（ ）を表す報告書である。  
【選択肢】 経営成績、資産の状態、財政状態、利益、資産と負債
- ⑯ 貸借対照表等式は、 $資産 = 負債 + ( )$ で、貸借対照表の仕組みを表す。  
【選択肢】 当期純利益、資本金、純資産、貸付金、借入金
- ⑰ 損益計算書の貸方には、（ ）が表示される。  
【選択肢】 資産、負債、純資産、収益、費用
- ⑱ 損益計算書等式は、 $費用 + ( ) = 収益$ で、損益計算書の仕組みを表す。  
【選択肢】 資産、負債、純資産、当期純利益、現金
- ⑲（ ）では、 $当期純利益 = 収益 - 費用$ で、当期純利益を求める。  
【選択肢】 財産法、損益法、直接法、間接法、控除法
- ⑳（ ）では、 $当期純利益 = 期末純資産 - 期首純資産$ で、当期純利益を求める。  
【選択肢】 財産法、損益法、直接法、間接法、控除法

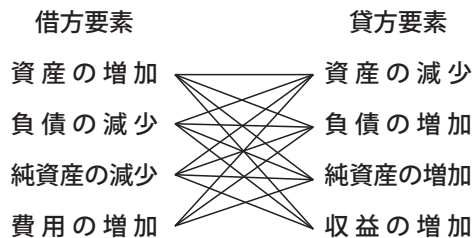
## 2-1 取引の意義と種類

**簿記**は、会社が行った仕事を、記録して、集計して、報告するためのものです。でも、すべての仕事を記録するわけではありません。会社が行った仕事の中で、取引と呼ばれる仕事だけを記録します。簿記で取引というのは、一般的に使われる取引とは少し違います。**簿記上の取引**は、その仕事をするによって会社の財産（資産、負債、純資産）が増えたり、減ったりする仕事のことです。一般的な意味では、商品の売買の契約をするなど当事者間での同意が成立すれば取引といいます。でも、簿記では商品の売買の契約をしても、商品や代金の授受が行われるなど財産（資産、負債、純資産）の変動がないと取引とはいいません。

簿記上の取引には、財産だけ、つまり資産、負債、純資産だけが増減する**交換取引**、財産と収益か費用のどちらかが増減する**損益取引**、両方が同時に行われる**混合取引**があります。現金を銀行の預金口座に預けたとか、現金でパソコンを購入したといった取引は交換取引です。家賃を現金で支払ったとか、銀行の預金の利息が口座に振り込まれたといった取引は損益取引です。借入金を利息と一緒に現金で返済したというのは混合取引になります。

## 2-2 取引の8要素と結合関係

取引は財産の増減をとまなう出来事で、財産である資産、負債と純資産の増減、そして財産の増減の原因である収益と費用の増加といった8要素を組み合わせることによって表すことができます。8つの要素は借方要素と貸方要素に区別でき、取引は1つ以上の借方要素と1つ以上の貸方要素の組み合わせで表すことができます。借方要素、あるいは貸方要素だけの組み合わせはありません。この関係を図で示すと、以下のようになります。



例を挙げるとつぎのようになります。

- ① 現金を銀行の預金口座に預けた。  
⇒ **借方要素** 銀行の預金という資産の増加      **貸方要素** 現金という資産の減少
- ② 現金でパソコンを購入した。  
⇒ **借方要素** パソコンという資産の増加      **貸方要素** 現金という資産の減少
- ③ 家賃を現金で支払った。  
⇒ **借方要素** 家賃という費用の増加      **貸方要素** 現金という資産の減少
- ④ 銀行の預金の利息が口座に振り込まれた。  
⇒ **借方要素** 銀行預金という資産の増加      **貸方要素** 利息という収益の増加
- ⑤ 借入金を利息と一緒に現金で返済した。  
⇒ **借方要素** 借入金という負債の減少      **貸方要素** 現金という資産の減少  
    利息という費用の増加

これらは取引の種類を説明するときにあげた例ですが、必ず借方要素と貸方要素の組み合わせで表すことができます。①～④は要素がひとつずつの場合ですが、⑤のようにどちらか、あるいは両方が2つ以上の要素になる場合もあります。

#### memo

取引の8要素は、収益の減少と費用の減少を加えて取引の10要素ということもあります。でも、これらの要素は日常の取引ではほとんど発生しないので、本書では取引の8要素とします。取引は必ず、借方要素と貸方要素の組み合わせになります。一方がその取引の原因で、もう一方が結果を表します。このように取引を原因と結果の2面でとらえる簿記を**複式簿記**といいます。これに対して、小遣い帳や家計簿のように1面だけでとらえる簿記を**単式簿記**といいます。



## 2-3 勘定の意義と分類

簿記上の取引は、取引の8要素の組み合わせで表すことができますが、これらを記録し、集計するところが**勘定** (account : a/c) です。

勘定にはそれぞれの性質から個別の名称、つまり**勘定科目**がつけられています。勘定は資産、負債、純資産、収益、費用の5つに分類されます。代表的な勘定科目を示すと、つぎのようになります。

勘定科目		意味
資 産	現 金	通貨（紙幣、硬貨）など
	当 座 預 金	小切手を使って引き出しをする無利子の銀行預金
	普 通 預 金	キャッシュカードや通帳を使って引き出しをする銀行預金
	売 掛 金	後で受け取ることにした商品の売上代金
	受 取 手 形	商品の売上代金を受け取る権利を書類にしたもの
	貸 付 金	借用証書を使って貸し付けたお金
	建 物	店や事務所などのための建造物
	備 品	机、いす、パソコンなど
	土 地	建物を建てるための地面
負 債	買 掛 金	後で支払うことにした商品の仕入代金
	支 払 手 形	商品の仕入代金を支払う義務を書面にしたもの
	借 入 金	借用証書を使って借り入れたお金
純 資 産	資 本 金	元手、出資金 資本金 + 利益（個人企業）
収 益	売 上	商品を販売した時に受け取る代金
	受 取 手 数 料	取引を仲介したときなどに受け取る代金
	受 取 家 賃	建物などを貸すことによって受け取る代金
	受 取 利 息	銀行預金や貸付金に対して受け取る利息
	固定資産売却益	固定資産を売却することによって得られる儲け
費 用	仕 入	商品を購入するときに支払う代金
	給 料	従業員の労働に対して支払う代金
	水 道 光 熱 費	電気、ガス、水道のために支払う料金
	通 信 費	電話、郵便など通信のために支払う料金
	保 険 料	生命保険や損害保険のために支払う代金
	支 払 手 数 料	取引の仲介を受けたときなどに支払う代金
	支 払 家 賃	建物などを借りることによって支払う代金
	支 払 利 息	借入金に対して支払う利息
	固定資産売却損	固定資産を売却することによって損した金額